

卒業研究 I

科目ナンバリング THE-401
必修 0単位

中澤 雄飛

1. 授業の概要(ねらい)

本演習は、体育・スポーツを主たる対象とし、その現代的課題について学術的に向き合うことを目指しています。体育・スポーツは、人間に不可欠な文化である一方、その概念は現在、多様化・肥大化しており、重要性のみならず多くの課題もまた指摘されています。そこで、スポーツに関わる人にとっては、それらの事象に対して冷静に調査・分析し、客観的に議論できる力が求められます。よって本演習では、体育・スポーツ科学の動向について解説すると共に、体育・スポーツ科学の研究手法について紹介していきます。そして、議論を通して各種テーマへの思考を深めていきます。なお、本授業は履修者のプレゼンテーションを基にしつつも、主としてディスカッション形式で展開します。

2. 授業の到達目標

- ・体育・スポーツ科学の特徴とその研究方法について、説明することができる。
- ・体育・スポーツの諸事象に対して、自ら問いを立てることができる。
- ・学術的な方法に基づき、自らの考えを述べることができる。

3. 成績評価の方法および基準

- ・授業への取り組み(発表、調査、議論への参加等)(40%)。
 - ・期末レポート(主に調査量、問題設定の客観性、考察の論理性を評価)(60%)。
- ※授業回数の3分の2以上の出席者を評価の対象とします。

4. 教科書・参考文献

教科書

使用しません。適宜、資料を配布します。

参考文献

高橋徹編 『はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学』 みらい

友添秀則・岡出美則編著 『教養としての体育原理：現代の体育・スポーツを考えるために』 大修館書店

全国教育系大学剣道連盟編 『教育剣道の科学』 大修館書店

その他、適宜授業内で紹介します。

5. 準備学修の内容

- ・研究発表に際しては、自らの研究テーマに沿った資料を発表日までに作成して下さい。
- ・期末レポートの作成に際しては、論理構成のメモを作成し、執筆前に必ず提出して下さい。
- ・時事問題に関心を持ち、自らの研究テーマと関連付けて思索し、気付いた点を記録しておくことを推奨します。

6. その他履修上の注意事項

- ・本授業は、「教育学演習Ⅱ」へと接続しています。
- ・次世代のスポーツ文化を担う人材として、自覚と責任、情熱を持って、真摯に学修して下さい。

7. 授業内容

- | | |
|--------|---|
| 【第1回】 | オリエンテーション(授業の進め方、評価方法等についての説明)(講義、ディスカッション) |
| 【第2回】 | 体育・スポーツ科学の動向(講義、ディスカッション) |
| 【第3回】 | 体育・スポーツ科学と教育学(講義、ディスカッション) |
| 【第4回】 | 身近な話題から体育・スポーツについて考察する(講義、ディスカッション) |
| 【第5回】 | 体育・スポーツの現状から問いを立てる(講義、ディスカッション) |
| 【第6回】 | 研究発表からの検討①—体育・スポーツ科学の研究手法—(講義、プレゼンテーション、ディスカッション) |
| 【第7回】 | 研究発表からの検討②—問題設定に着目して—(講義、プレゼンテーション、ディスカッション) |
| 【第8回】 | 研究発表からの検討③—論理性に着目して—(講義、プレゼンテーション、ディスカッション) |
| 【第9回】 | 研究発表からの検討④—先行研究に着目して—(講義、プレゼンテーション、ディスカッション) |
| 【第10回】 | 研究発表からの検討⑤—研究領域の在り方に着目して—(講義、プレゼンテーション、ディスカッション)
※体育・スポーツ実践に関わるゲストスピーカーを招いてのディスカッション |
| 【第11回】 | 研究発表からの検討⑥—体育・スポーツ科学の複合性に着目して—(講義、プレゼンテーション、ディスカッション)
※アダプテッドスポーツに関わるゲストスピーカーを招いてのディスカッション |
| 【第12回】 | 研究発表からの検討⑦—研究計画に基づく報告・発表—(講義、プレゼンテーション、ディスカッション) |
| 【第13回】 | 学術的な文章の書き方、文献リストの作成方法(講義、ディスカッション) |
| 【第14回】 | 期末レポートの作成方法、論理展開の検討(講義、プレゼンテーション、ディスカッション) |
| 【第15回】 | 期末レポートの修正と振り返り、授業のまとめ(講義、プレゼンテーション、ディスカッション) |

※ゲストスピーカーの招聘については、講師のスケジュールの都合により、変更となる場合があります。